

那珂川町の文化財XX

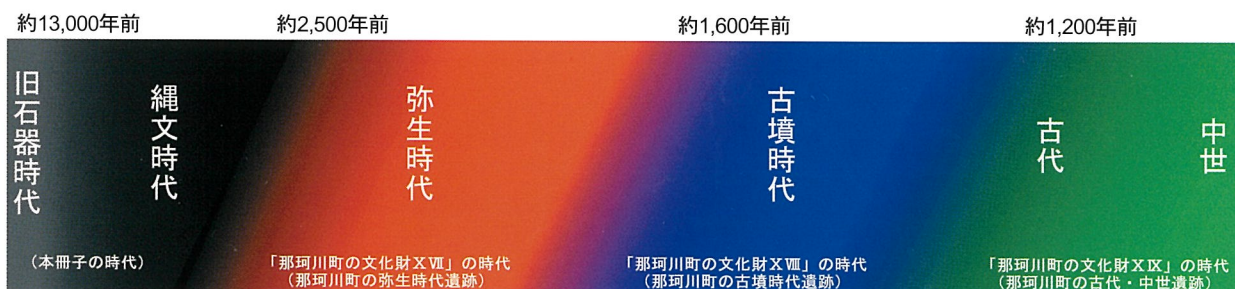
那珂川町の旧石器・縄文時代遺跡

2012

那珂川町教育委員会

はじめに

これまで、那珂川町の文化財XⅦ～XⅨで弥生時代、古墳時代、古代・中世の遺跡を紹介してきました。今回は「那珂川町の文化財XⅩー那珂川町の旧石器・縄文時代遺跡ー」と題して、旧石器時代と縄文時代の那珂川町の主要な遺跡を紹介します。旧石器時代は今から約3万年前から1万3,000年前の間で、その頃の日本列島は針葉樹林と草原が広がる寒冷な環境でした。人々はナウマンゾウなど大型動物を追い求め、石槍を手に遊動生活を送っていました。ところが、約1万5,000年前から地球の温暖化が進みます。針葉樹林や草原は木の実が繁る豊かな広葉樹の森へと姿を変え、大型動物に変わってシカやイノシシなどの小型の動物が森に棲むようになります。自然環境の変化に人々は上手に対応していき、森の中で動きの素早い小動物を狩ることができる弓矢や煮炊きのできる土器を発明しました。こうして縄文時代が始まります。縄文時代は約1万3,000年前から弥生時代が始まる約2,500年前の約1万年の間で、縄文人はシカやイノシシ、魚や貝、木の実など多くの食料を安定的に確保できるようになり、竪穴住居を造って定住生活を送るようになります。那珂川町では旧石器時代の遺跡として、井河遺跡群で狩りに使った角錐状石器が見つかり、この頃には那珂川町の周辺で人々が生活を営んでいたことがうかがえます。縄文時代になると四郎五郎池遺跡群で縄文式土器と石器が見つかり、倉谷遺跡群や深原遺跡群、後野・山ノ神前遺跡群、立ノ口遺跡群、山田西遺跡群、松ノ木遺跡群、中原・ヒナタ遺跡群、観音堂遺跡群では発掘調査に伴って土器や石器とともに住居跡や炉跡など、生活に係る遺跡が確認されています。今回の冊子では、これらの遺跡を紹介しています。この冊子を通して那珂川町の歴史に触れる機会となっただけであれば幸いです。



※この年表は、那珂川町で発行している文化財啓発冊子「那珂川町の文化財XⅦ～XⅩ」で紹介している各時代を表しています。

井河遺跡群

井河遺跡群は標高25～50mの丘陵と微高地上に営まれた遺跡群で、発掘調査の結果、古墳時代の住居跡やお墓と旧石器時代の石器が見つかりました。見つかった石器は角錐状石器と呼ばれるもので、材質が黒曜石で断面が三角形をしており、右図のように槍の先に付けて使っていたと考えられています。那珂川町で旧石器時代の遺物は例が少なく、貴重な発見となりました。



▲見つかった角錐状石器
長さは約4.5cmです。



角錐状石器の装着図

倉谷遺跡群

倉谷遺跡群は標高約350mの山岳部に営まれた遺跡群で、五ヶ山ダム建設に伴って発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代から中世にかけての遺跡が発見されました。縄文時代のものとしては石器や土器が出土し、そのうち縄文時代の最も古い頃に使われた細石核と細石刃と呼ばれる石器が見つかりました。細石刃は右図のようにして木や骨製の柄の縁辺に彫った溝や穴にはめ込んで使用します。刃こぼれなどしたときはその部分をさしかえ、その他の部分はそのまま使用できるので石材を効果的に利用する点で最高の石器です。



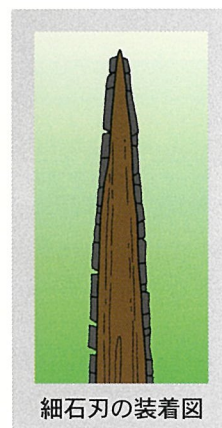
▲平成22年度調査地点



▲細石核
はんえんすいけい
半円錐形をしています。長さ約2cm。



細石刃▶
厚さは薄く、左上のもので長さ約2cm。



細石刃の装着図

深原遺跡群

深原遺跡群は観音山の裾部に広がる標高40m前後の扇状地上に営まれた遺跡群で、縄文時代早期から晩期、古墳時代の遺跡が見つっています。そのうち縄文時代のものとしては石組炉32基、円形竪穴遺構1基を確認し、押型文土器や石器が大量に出土しています。これらのことから、この付近一帯に縄文時代早期から晩期にかけての大集落が営まれていたことがわかりました。



▲石組炉跡 熱の伝わりがよくなるよう石が敷きつめられています。

円形竪穴遺構▶
中から土器や石器が大量に見つかりました。大きさは直径約2.2mで、2畳ほどの広さです。



▲押型文土器 表面に格子目の文様がつけられています。高さ約25cm。

やま だ にし い せき ぐん
山田西遺跡群

山田西遺跡群は那珂川左岸の標高約34mの河岸段丘上に営まれた遺跡群で、これまで4回発掘調査を行っており、その結果、縄文時代と鎌倉・室町時代の集落を発見しています。これらのうち縄文時代の集落は、後期から晩期(約4,500～3,000年前)にかけてのもので、最初に発掘調査を行った平成2年には「西日本最大規模の縄文後期の大集落」としてテレビや新聞に大きく取り上げられました。見つかった住居跡は26棟で、形は方形や円形をしており、中からは当時の人々が煮炊きに使用した土器や、狩りや動物を解体するために使用した石器とともに、「十字形石器」と呼ばれる大変珍しい石製品も出土しました。この他にドングリなどの木の実を蓄えた「貯蔵穴」と呼ばれる大きく深い穴や、木の実のアクを抜くために使用する「灰」をつくったと考えられる大きな「炉跡」なども見つかり、当時の社会を知るうえで、とても貴重な発見となりました。

17号竪穴式住居跡▶

屋根や柱は腐って無くなっていますが、地面を丸く掘りくぼめた跡が残っています。大きさは直径約5mで、12畳ほどの広さです。



▲5号竪穴式住居跡

住居内からはたくさんの土器とともに「十字形石器」が出土しました。大きさは一辺が約3.5mで、8畳ほどの広さです。



▲3号炉跡 大きさは長さが約3.5mで、まわりに石が並べてありました。炉は二段になっており、上段は真赤に焼け、下段には灰がぎっしりとつまっていました。この灰は、当時の貴重な食料だった「ドングリ」のアクをぬくために使われたのではないかと考えられます。



▲後期の土器 表面にヘラで文様が描かれています。左端の土器は高さ約14cm。

晩期の土器▶

後期の土器と比べて文様が少なくなります。右端の土器は高さ約46cm。





▲見つかった大量の黒曜石(左)とサヌカイト(右)の破片

◀十字形石器 一部が折れていますがもともと十字形をしていることからこの名がつけました。蛇紋岩製で、きれいに磨かれているものは珍しいです。長さは12cmです。



せきぞく

▲石鏃 狩りのときに弓矢の先につけて使いました。



せきすい

▲石錐 今のドリルと同じよう使われました。左側の四つは黒曜石製、一番右はサヌカイト製です。



せきすい
石錘▶

魚を捕るときに使ったあみのおもりです。平たい川原石の上下をくぼませたものや丸い川原石に溝を刻んだものがあります。

◀石匙 動物の皮をはいたり、なめしたりするのに使われました。サヌカイト製です。



だせいせきふ
打製石斧▶

木を切り倒したり、土を掘り起こしたりするのに使われました。



ませいせきふ
磨製石斧▶

木を切り倒したり、土を掘り起こしたりするのに使われました。表面はていねいに磨かれています。



うしろ の やま の かみ まえ い せき ぐん 後野・山ノ神前遺跡群

後野・山ノ神前遺跡群は標高約200～250mに営まれた縄文時代と奈良時代の遺跡群です。そのうち縄文時代の遺跡は集石遺構5基、土坑6基が見つかっており、中でも4・5号集石遺構は円形の掘り込みのほぼ中央に作られていることから竪穴式住居跡とも考えられます。また、2号集石遺構からは土製の紡錘車ぼうすいしゃが見つかります。

後野・山ノ神前遺跡群の様子▶

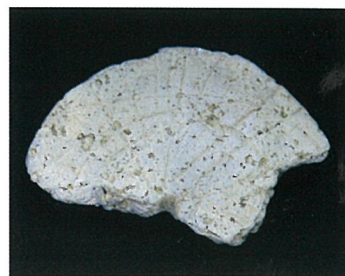




▲ 5号集石遺構 柱の跡は見つかりませんでしたが、縄文時代早期の土器が出土しました。大きさは直径約3mで、4畳ほどの広さです。



▲出土した土器 押型文土器と呼ばれるもので楕円や山形の文様がつけられています。



▲紡錘車 糸を紡ぐときのはずみ車で、表面にはヘラで模様が施されています。

立ノ口遺跡群

立ノ口遺跡群は標高約47mの扇状地に営まれた、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡群です。発掘調査の結果、縄文時代後期の竪穴式住居跡を確認し、縄文時代早期から晩期の土器が出土しました。本遺跡群の南西には縄文時代の大集落の深原遺跡群があり、このあたり一帯まで集落が広がっていたことがうかがえます。



▲ 1号竪穴状住居跡 四角く掘りくぼめられています。大きさは一辺が約3mで、5.5畳ほどの広さです。



▲縄文時代前期の土器 曽畑式土器で、胎土中に大量の滑石が混ざってあります。

中原・ヒナタ遺跡群

中原・ヒナタ遺跡群は標高約23mの微高地上に営まれた縄文時代と古墳時代から奈良時代の遺跡群です。発掘調査の結果、縄文時代後期の竪穴式住居跡や土坑、溝が見つかりました。このうち、2号竪穴住居跡からは大型の深鉢が出土しています。また、53号土坑からは黒曜石の細かな破片が大量に出土しました。もしかしたら、この場所で石器を作っていたのかもしれない。



▲ 1号竪穴状住居跡 屋根や柱は腐って無くなっていますが、地面を丸く掘りくぼめた跡が残っています。大きさは直径約4.5mで、9.6畳ほどの広さです。



▲出土した土器 高さ約40cm。

かん のん どう い せき ぐん 観音堂遺跡群

観音堂遺跡群は標高約28mの低丘陵上に営まれた、縄文時代晩期から古墳時代にかけての遺跡群です。縄文時代の遺跡は土坑が見つかりました。その中からは据え置かれたような状態で浅鉢が出土しており、お墓ではないかと考えられます。浅鉢の口の部分は角がはえたような珍しい形をしています。つづく弥生時代や古墳時代にもお墓が作られていることから、昔からこの場所が特別な場所であったことがうかがえます。



▲出土した浅鉢
高さ約7cm。



▲1号土坑 大きさは長さ約22m、
幅約1.3m、深さ約30cmです。

まつ の き い せき ぐん 松木遺跡群

松木遺跡群は那珂川と梶原川に挟まれた標高約24mの河岸段丘上に営まれた、縄文時代から中世にかけての遺跡群です。縄文時代の遺跡は土坑や溝が確認されており、土坑からは縄文時代晩期の土器と石鏃が出土しています。また、縄文時代前期の土器も見つかっていることから、縄文時代の古い頃からこの周辺で人々が生活をしてきたことがわかりました。



▲出土した土器 どちらも浅鉢で、表面が丁寧に磨かれています。
右の土器は高さ約10cmです。

し ろう ご ろう いけ い せき ぐん 四郎五郎池遺跡群

四郎五郎池遺跡群は標高約390mの山間地に位置します。発掘調査は行われていませんが、池の周りからは縄文式土器や石器といった当時の人々の生活の道具が見つかっています。見つかった道具から当時の人々が池のほとりでキャンプをし、近くの山で狩りをしたり、木の実をとったりといった様子が想像されます。



▲四郎五郎池

おわりに

今回は旧石器・縄文時代の代表的な遺跡を紹介しました。旧石器時代の様子はよく分かっていませんが、縄文時代になると山間地から平野の多くの場所で遺跡が営まれます。また、深原遺跡群や山田西遺跡群などの大集落も営まれるようになり、縄文時代の人々の力強い生活の営みが感じられます。縄文時代以降弥生時代にもたくさんの遺跡が営まれますが、その基盤となる人々の営みは縄文時代の勢いをさらに増して、次の時代に引き継がれていったことでしょう。

1. 観音堂遺跡群
2. 井河遺跡群
3. 今光・宗石遺跡群
4. 中原・ヒナタ遺跡群
5. 松木遺跡群
6. 立ノ口遺跡群
7. 井出ノ原遺跡群
8. 深原遺跡群
9. 後野・山ノ神前遺跡群
10. 大藪池遺跡群
11. 萩ノ原遺跡群
12. 古屋敷遺跡群
13. 平蔵遺跡群
14. 大坪遺跡群
15. 山田西遺跡群
16. 小柳遺跡群
17. 大牟田遺跡群
18. 四郎五郎池遺跡群
19. 五ヶ山網取遺跡群
20. 倉谷遺跡群

※赤文字は冊子で紹介した遺跡

那珂川町の文化財 X X
那珂川町の旧石器・縄文時代遺跡
2012年

発行：那珂川町教育委員会
福岡県筑紫郡那珂川町西隈1丁目1番1号

印刷：有限会社 成光社
福岡市南区大楠1丁目29番33号

那珂川町の主な旧石器・縄文時代遺跡の分布

この地図は国土地理院刊行の地形図福岡・背振山・大宰府・甘木を使用しました。